

触媒学会会長候補者「経歴と会長としての抱負」

1) 候補者指名

石原達己 (いしはらたつみ)



2) 生年月日

1961年4月5日

3) 略歴

1986年3月 九州大学大学院総合理工学研究科修士課程 修了

1986年4月 九州大学大学院総合理工学研究科 助手

1991年3月 工学博士 (九州大学)

1988年11月 大分大学工学部、助手、講師、助教授

2003年5月 九州大学大学院工学研究院 教授

2023年4月 九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 所長

4) 所属・職位

九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所・教授

5) 専門分野

触媒化学、燃料電池関連触媒、環境触媒

6) 受賞歴

1998年 触媒学会奨励賞

2011年 市村学術賞

2013年 日本セラミック学会 学術賞

2013年 触媒学会学会賞 (技術賞)

2020年 触媒学会学会賞 (学術賞)

7) 会長としての抱負

カーボンニュートラルな社会の構築は、今、最も重要な課題であり、多分野にわたる横断的で、革新的な科学や技術の開発が求められています。これらのカーボンニュートラル技術は、触媒科学の果たす役割が多く、本会が貢献できることが多いと思います。本会として、ぜひ社会への貢献を行うべく取り組んで、先導したいと思います。一方で学会として、次世代を担う若手の育成は最も重要な事項と考えており、企業、大学を問わず、若手研究者が魅力を感じる学会になるように注力していきたいと思います。「触媒の未来を考えるWG」のように若手からの意見を聞ける制度を確立して、触媒討論会への若手研究者の参加を促す企画を立てるとともに、学生会員から触媒学会で活動する若手研究者の育成に

努めたいと思います。国際化はさらに重要な課題であり、2028年 ICC 招致に向け、持続的に活動を支援していきたいと思います。このために、触媒討論会等への海外の著名研究者の招聘や若手の海外への派遣の支援にも、積極的に取り組んでいきたいと思います。本会の特長は、討論を楽しむ文化ですので、コロナ禍で薄れてしまった会員が相互に議論する文化を大切にして、研究者間の相互交流の機会をなるべく多く設け、分野横断的で、新しい情報を発信できる学会を目指したいと思います。